

文部科学省委託調査研究

URAシンポジウム「大学の研究経営システムの改革に向けて～URAへの期待とURAシステムの課題～」

課題整理「調査研究で見えてきたこと」

公益財団法人 未来工学研究所

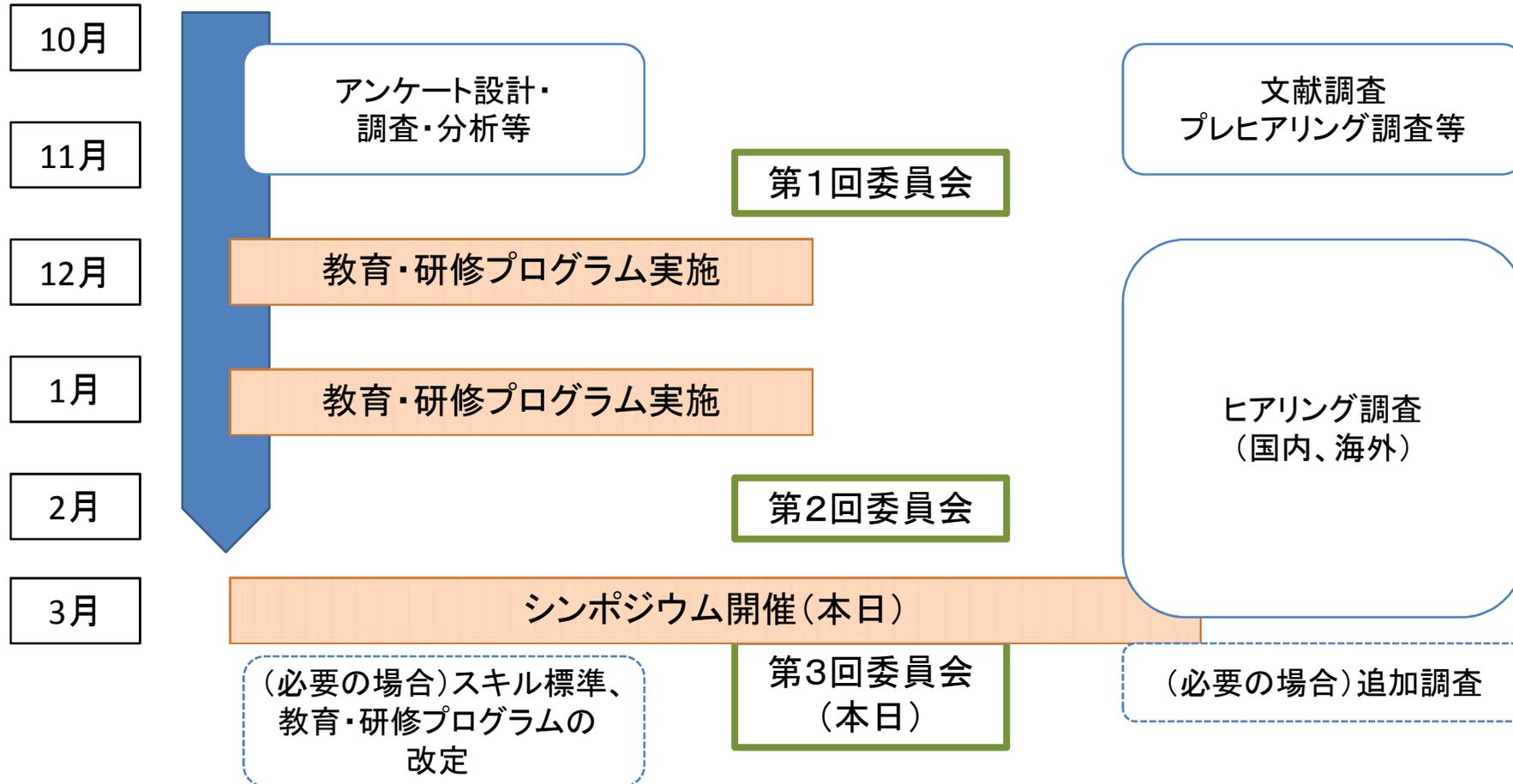
2015年3月14日(土)

政策研究大学院大学 想海樓ホール

委託調査の概要

(1) スキル標準及び研修・教育プログラムの深化のための調査分析

(2) URA制度の課題(資格化、能力認定含む)に係る基礎的調査



(3) 報告書の作成

調査推進体制

検討委員会(敬称略)

氏名	所属・肩書き
佐久間 一郎(委員長)	東京大学大学院 工学系研究科 教授
中島 一郎(副委員長)	早稲田大学 研究戦略センター 教授
池田 雅夫	大阪大学 副学長
高橋 真木子	金沢工業大学大学院 知的創造システム専攻 教授
田中 耕司	京都大学 学術研究支援室(URA室) 室長
向 智里	金沢大学 理事(総括・改革・研究・財務担当)・副学長
森田 育男	東京医科歯科大学 理事・副学長(研究・国際展開)
山本 進一	岡山大学 理事・副学長(研究担当)

現場の声

大学だけでキャリア
アパスは作れない？

事務職員との違い
は？

研究戦略？

良いURA人材って
何？

URAを
どう育てる？

資格化必要？

博士号は必要？

URAをどう処遇
する？

見えてきた課題①

- 研究戦略の範疇をどう捉えるか？
 - 競争的資金等の補助金部分だけではなく、運営費交付金等の基盤的経費や学長裁量による学内競争的資金も考慮する必要
 - 研究戦略が求められるのは研究大学だけではない
- 大学のミッションや規模・位置づけ等により、研究経営システムの形は異なってくるのではないか？
 - “人”は重要。ただし、人に依存するのではなく、人を活かすシステムが必要
 - ミッション等に応じて、組織の中でどういう人材が必要なのか、という視点からの議論が必要
 - リサーチマネジメントの組織化という観点からの整備が必要

見えてきた課題②

- URAは、大学の研究経営システム改革のドライビングフォースたりうるか？
 - ゲームのない中で、国－大学－実務者の各レイヤーで何をやるべきか？3レイヤーをつなぐ中間としてのネットワークはどうあるべきか？
 - 経営層が求める能力や期待と、実務者のモチベーションやスキルとのギャップをどう埋めるか？
 - 教員や事務職員、URA類似職との関係をどう整理するか？学内でどう信頼を勝ち取るか？
 - 信頼の源泉は個人の能力や資格だけではない。実績を積みつつ、段階的に学内制度を改革するなどの工夫が必要
 - URA整備の効果はどう測るか？
- 人材が活躍できる環境をどう形成するか？
 - 大学だけで労働市場が形成されるか？知識社会化という観点で、研究経営に係るあらゆるセクターで活躍できる場を作る必要

-
- 各大学が競うのは“成果”だけではない。
 - 成果を生み出しうる研究経営システムをどう構築できるかを競い合う時代へ。